

「花いっぱい きれいな駅に」

五所川原・飯詰を元気にする会

花いっぱい きれいな駅に

シノウハブ園 再生活動取り組み

取り組んでいる。かつては辺り一帯を埋め尽くすほど咲き誇っていたとされ、関係者は「花いっぱいのきれいな駅に」との夢を描き、地道な取り組みを進める。(盛禎央)

五所川原市飯詰の青森職業能力開発短期大学校と、住民グループ「飯詰を元気にする会」は4年ほど前から、津軽鉄道津軽飯詰駅近くにあるノハナシヨウブ園の再生活動に



ハナシヨウブ園の再生に向け、ボランティアに汗を流す学生たち

同駅は2004年に無人となったが、同会などがにぎわい再生を目指し、さまざまな活動を行っている。ノハナシヨウブ園には「津鉄開業五十五周年ノハナシヨウブ二昭和六十年 六月四日」と記された標柱があり、今から35年ほど前に植えられたとみられる。しかし、現在は雑草が生い茂り、花が見頃を迎えてもちらほら見える程度。こうした状況を受け、「花のある、きれいな駅に」と同校と同会が協力し、雑草除去や花の植え替

えなどを行っている。1日に今年度1回目の活動が行われ、学生ボランティアを募ったところ、同校の1年生11人が参加。学生らはスコップで雑草を取り除き、また生えてこないようビニールシート

をかぶせる」といった作業に汗を流した。杉本真央さん(18)は「学校に近い駅なので、またきれいになってくれたらうれしい」と願い、同校の瀧田大亮学務援助課長は「地域あつての短大なので、今後もボランティア活動を継続したい」と話した。駅周辺では今春、同会などで植えた菜の花が咲き誇り、岡田千秋会長は「四季を通じて花いっぱいの駅として、再生できれば」と展望を語った。

※この画像(記事)は、陸奥新報社提供です。無断転載はできません。